

38 歳

てふてふが一匹 韃靼海峡を渡って行った

鳥取県倉吉市立西郷小学校 松本勝男

分析批評の原型をみる思いがする。

子供が文章をぐいぐいと検討する。

一字一句を検討する。

この詩における向山氏の分析批評が私には最も分かりやすい。

1 「てふてふが一匹韃靼海峡を渡って行った」

このように授業する

第一回目の授業

- (1) 私は黒板に「春」安西冬衛と書いて、子供達の新しいページに写させた。
- (2) どんな読み方でもいいから、わからないところはデタラメでもいいから、読んでください。

指名し、読ませた。「すばらしい120点すばらしい。」とほめた。

- (3) とところで、海なんとかのなんとかは何だ。
女4人に当てたが全部だめ。菱田君は「かいきょう」と読んだ。
- (4) 問題は、韃靼である。ねをあげていた。
「漢字の読み方はどこかに書かれていることが多い。」とヒントを出す。

たつひ海峡、たつひはじめ、

たったん海峡　すごい100点だ。

- (5) 韃靼海峡とは間宮海峡のことであることを知らせた。
- (6) 子どもたちは「てふてふ」を問題にした。
「ちょう」と北村君が読んだ。

- (7) 何度か読ませた。

25分授業の半分を越えたところだった。

- (8) 「このちょうちょは海を渡ったと思うか」と聞いた。
- (9) 話者と作者のちがいを話した。

「わが輩はねこである」というときの「猫」は作者ではない。作者は夏

目漱石である。しかし、作品にはその物語を語る人がいるはずである。
これが、話者である。話者はどこからか見ているはずである。

- (10) 「この詩をみている位置を目ダマで書きなさい。」と指示した。
ノートに絵を書き出した。

第2回目の授業

- (1) さて、黒板に出て、目玉を書き込ませた後、どれに賛成するか手をあげさせた。
六つの意見を自由に発表させて、まとめていくのは四年生には困難である。
- (2) まず、班ごとに机をまとめさせ、「自分の考えを班で発表して他の人に意見を聞きなさい。」と言った。 5分以内
- (3) 「だめだと思うのを一つだけ班で決めなさい。」と指示した。
3分で止めさせた。
- (4) 「自分の考えでよいから手を挙げなさい」と言ってあげさせた。
- (5) 菱田君は意見を変えた決定的な理由があったはずである。私は、全員に反対する理由をノートに書かせた。
- (6) そして、私の所に持ってこさせた。
- (7) 発表する。いけないものを消去する。

第3回目の授業

- (1) 「ちょうちょはまだ見えているのか。もう見えなくなってしまったのか？」
向こう岸についた。 24人
途中で見えなくなった。 12人
- (2) グループ毎に、教室の後ろと前に集合させた。
これは失敗だった。勝ち負けのみに意識がいつってしまったからである。
意見が動きにくくなったのである。
- (3) 私は多数派に聞いた。
「星さんが、家に帰って行った、という時、星さんは家についているか？」
家についていない。
では、この場合はどうか。
向こう岸にはついていない。しかし、見えなくなったかどうかはわからない。

第4回目の授業

- (1) 「話者には、ちょうちょがまだ見えているのか。もう見えなくなったのか。」

という質問をした。

多数派は見えなくなった。

(2) 次の例を示した。

坂本さんを立たせ、廊下に行かせながら、「坂本さんが帰って行った」というのは坂本さんが見えているときにいうか、見えないときにいうか」と聞いたのである。

この場合はどちらの場合でも使う。

ちようちよの場合もどちらでも良い。しかし「見えなくなった」と考える方が自然である。

(3) 「この詩の中で対比されている言葉はどれとどれでしょう。対比とは、例えば、大きいに対して小さい、先生に対して生徒というように反対の組み合わせになる言葉です。

てふてふと韃靼海峡

(4) これはどういうふうに対比されているか。

生き物と海が対比されている。

(5) てふてふという生き物が大きな自然に、海に挑んでいくというものだよ。一つの詩の中に、生き物と海（自然）を意識するのは、やはり、すごい。

(6) まだ、ほかの見方ができるだろう。

小さいものと大きいもの

ひら仮名と漢字

(7) ひら仮名と漢字だと、どういうちがいが感じられるか。

ひら仮名は弱い感じがする。漢字は強い感じがする。

(8) ダッタンという音のひびきを聞いた。

強い、ぶきみ

(9) この詩はA外国にいて日本を見ているか。B日本にいて外国を見ているか。

Aが25人 Bが10人

(10) 春という詩を作った人は幸福だったか、不幸だったか。

不幸だ35人 幸福だ2人

高学年ならこれに、主題を考えさせる授業を組むのかなと思う。

対比を駆使することで私はようやく、主題を考えることができ出した。

分析批評を知らないときは、指導書を読んでから、子供に説明しているだけであった。

教師は、分析批評を知るべきである。

2 授業参観の授業

大事なことはくどいくらい何回もしなくてはいけないと思った。
叱るときには、結論だけ行って育てられた子と、理由も言って育てられた子
では知能の発達がすごくちがうという研究結果を思いだした。
理由も言われたほうが発達するのである。

- ◇ $1 \quad 2 \quad 3 \quad 4 =$ と黒板に書き、それをノートに写すように指示したのであるが、たったこれだけのことで、何回か確認することが必要であった。
- ◇ $1 + 2 \times 3 - 4 =$ を計算しなさい。
十数名は間違えた。
- ◇ $4 \quad 4 \quad 4 \quad 4 =$ は昔からある有名な問題である。
ぜひ、答えが1～10までできるように遊んでほしい。
- ◇ $3 \quad 3 \quad 3 \quad 3 =$ でもできる。

計算のきまりはなかなか定着しない。
繰り返し繰り返しくどいほどやらねばならない。
このことを肝に銘じたい。

話者がどこからどのようにみているか

はる 谷川俊太郎

はなをこえて しろいくもが
くもをこえて ふかいそらが

はなをこえ くもをこえ そらをこえ
わたしはいつまでものぼってゆける
はるのひととき わたしはかみさまと しずかにはなしをした

豊橋の先生方が参観に来られたときの授業である。

松本勝男（まつもと かつお）＝法則化サークル 山陰なしの会